

民族文化と生態環境の関係についての予察

和 愛華[※]

一九九四年の金色の秋、私は幸いに日本の筑波大学と中国の雲南省社会科学院を始めとする日中連合西南中国民俗調査団に参加できた。正直に言えば、私は社会科学にあまり詳しくないが、佐野賢治先生、郭大烈研究員、白庚勝先生等の大勢有名な学者の影響を受けて、すごく興味が出てきて、色々な勉強になった。同時に、私達は雲南省麗江納西自治県の四つの郷と七つの村の調査訪問を通じて、民族の形成と発展が自然環境と非常に密接な関係があると感じてきた。この中に深い神秘的な学問が含まれている。勝手に民族生態学と呼ばせて頂く。そして、納西文化のヒントを受けて、試しに民族文化と生態環境の関係について述べてみたい。

資料の考証によると、人類社会の形成と発展は様々な要因の制約を受けているが、もし人類活動が自然生態環境を切り離したら、すべての文化的な創造も客観的な基礎が無くなるだろう。現代化した今日の人類と自然界には時々矛盾と危機が生じているが、人類は動物と違う。人類は文化を持っているというのが理由である。人類は文化の適応によって、自然と調和して、発展している。ある学者の論証によると、異なる民族のたくさんの文化行為は生態環境に対して、調和と保護の役割を果たしているようだ。

一、生産民俗と生態環境

民俗は文化現象の一種である。その中の生産民俗は自然界と密接している。もし私達が生態経済という立場から世界の各地の各民族の生産民俗を辿ったら、この事実はすぐ発見できるだろう。民俗文化は生態環境と調和して、一致するのを保っているのが異なる民族でも共通の現象である。例えば、人類社会早期、社会発展と生産力の制約を受けて、狩猟、採集等の活動は様々なパターンの自然環境の中に存在していた。非常に豊かなところを包括する。社会が発展するにしたがって、まず農業文明が出てきた。相次いで、工業文明も発展している。しかし、現代にも狩猟、採集文化、遊牧、半遊牧文化はやはり存在している。何故か。勿論複雑な原因があるが、自然生態環境の制限はそこに於いて主な原因である。狩猟、採集及び遊牧民はふつう所謂地球の辺縁地域に住んでいる。即ち、砂漠、極地、熱帯雨林である。生産民俗は特定の生態環境と直接な関係がある。例えば、砂漠、半荒漠などの乾燥地区では灌漑水があり、緑洲農業が発展している。そのほかの広い土地の水分条件は農作物生長の最低限度の需要を保障できない。天然植被もとても乏しい。稀疎素地粗末の木と草類はただ若い枝、若い芽で粗末な飼料に耐えるらくだと羊、牛に食べられる。食べられた後も回復が遅いので、家畜を長く移動せざるを得ない。遊牧文化の形成

※中国科学院昆明生態研究所員

になる。

遊牧民俗の季節各に移動する生産習俗は生存自然に適応するといえる、自然生態のバランスを保つ一種の文化行為である。気候、草の状況によって、異なる放牧方式をとる。これらは皆習慣となる。夏は夏営地に移し、冬は冬営地に移す。雨季は雨季の牧場がある。干害の季節は干害の季節の牧場がある。つまり、どの季節はどの草を食べるか、どのような状況で“水平式遷移”をするか、どのような状況で“垂直式遷移”をするか、様々な放牧習俗がある。これらは植物の生長と西利用と関係がある。納西族も古代の遊牧チャン民族の祖先であった。上に述べた現象は麗江県の太安汝寒等の羊を放牧するなどの活動の中にやはり表われている。今でもまだ遊牧民族の習俗が続いているのである。今日の納西民族は大部分既に農業民族になったが、こちらも自然生態環境が異なる。生産民族にもある程度の差異がある。例えば、山岳地区の沢山の民俗は平野地区の民俗と異なる。河谷地区でもやや差異がある。その中に民俗種類によって、居住地も異なる。例えば、麗江の山岳地区の住民は主にイー族、プミ族等であり、河谷、台地等の地区は主に納西族、白族、漢族等である。勿論、例外もある。山岳地区は一般的に耕す土地が少ないが、動、植、鉱蔵の資源がわりに豊かである。加えて、高山気候及び交通不通の影響を受けて、山岳地区の生産民俗の主な類型は自然採集、狩猟、飼い馴らし、伐採、採鉱等である。例えば、採集には特定の季節がある。春、秋は二、八月に山薬を採る。春は山の野菜を採る。夏は椎茸、木耳を採る。秋は新鮮な果物を採る。つまり、どの季節にどのものを採るか決まっている。色々な習俗がある。狩猟も同じである。季節によって、狩猟の対象も異なる。一般に動物の成長と繁殖に良いと考えられる。例えば、ある民族は獵物に長盛不衰させるために妊娠している動物を捕るのを禁止している風俗がある。この習俗は動物の繁殖に対して、保護の役割を果たしている。勿論、かれらは資源を保護する認識がないかも知れない。

又、生産民俗と自然生態に適応と調和は漁業民俗中に表現が著しい。どの季節、どの旬期に、どこの海域、どこの河川で何をとり、どの方法で捕るかなどは、皆民俗伝統がある。異なる民俗の沢山の捕撈習俗は生態環境のバランスと関係がある。

二、宗教信仰と生態環境

宗教信仰の形成は非常に複雑だが、大自然と密接な関係がある。遊牧を営む民族はほとんど気候が乾燥して、雨が少ない広大な草原地帯で生活している。水、草はかれら世代世代が生存できる前提にあるから、かれらは“水草神”を崇拜している。水草が豊かできれいに牛肥馬壯を祈禱するに対して、山岳地区に生活している人々はふつう山神、樹神を崇拜している。山林はかれらが色々な豊かなものをつとめる源になるからである。宗教信仰は生態経済のバランスと微妙な関係がある。納西族は天神を祭祀するとき、高い山の黄櫨樹で天公（神話、伝説の中に自然界の主宰者を指す）を代表して、沖天柏で大黒柱を代表して、青い松の樹で神の樹を代表して、祭祀の活動が行なわれる。植物の青い刺で玄関にかけて、家畜の平安と無病息災を祈禱する。バラの枝で家庭の災難を追い払うなどの宗教信仰は植物界と緊密な関係がある。また、高い美しい玉龍雪山を

納西族の人々は守護神としている。すなわち，“三輪神”と言われる。仙境らしい雪山の下の方杉坪などの聖潔な土地は，そこで多くの犠牲の儀式等が行われた場所とされている。玉龍第三国と言われている。これらは皆人類生活，宗教信仰と自然生態環境の有機的調和の関係が表われている。納西族の人々は美しい自然環境への憧れ，好意も表われている。

自然資源の保護から見れば，沢山の民族は宗教信仰で，崇拜しているトーテムを一般的に殺すことと食べるのを禁止している。これはある動物，植物に保護の役割を果たすに違いない。例えば，中国の沢山の民族は封山という習俗がある。かれらは谷神（五穀の神）を祭祀する或いは山神のところを神聖なところとされている。これらのところは奥山，幽谷が多い。毎年，春蒔きが始まると，山中に入って，木こりをとるや狩猟や薬をとるなどを禁止する。即ち，封山である（山を封じて，木を育てることである）。秋獲した後で，開山し初めて，人々が出入りするままにとる。春は草木が生長し，鳥獣の繁殖に良い。この習俗は自然生態のバランスの保護と一致している。

又，ある宗教禁忌は時々ある資源が乏しいとふさわしい。例えば，浜辺の住民は狩猟と狩物を食べるのを禁止するのがふつうである。砂漠或いは草原の遊牧民族は魚類を食べるのを禁止する。ムスリムは豚肉を禁忌している。それはイスラム教がアラビア半島に形成されたからである。こちらはアジア大陸の橋渡しだと考えられる。干害の高原である。東側はペルシア湾に隣接して，南側はアラビア海に隣接して，西側は紅海に隣接している。唯一陸地と連なる北方はルブアルハリ砂漠である。遊牧経済における主な位置付けである。住民は牛，羊，らくだ等を飼うのが多いが，水草によって，営んでいる。それで，定居農業で飼料を提供する豚の飼養業が発展できない。

宗教禁忌は生態環境と関係がある。そして，宗教活動儀式は全部生態環境とある程度の関係がある。

又，人口問題は非常に複雑だが，それは国家の政策，社会環境，イデオロギー等沢山の原因と関係がある。しかし，ある民族文化行為は人口生態のバランスに調和という役割を果たしている。例えば，遊牧民族は哺乳期にセックスを禁止する。頻繁の人工流産などは人口の増加に制限の役割を果たしているが，定居の農業民族にとって，自然に恵まれている，優れている環境，十分な食物などの原因で，人口増加は速い。

勿論文化習俗と生態環境の間の調和は社会発展のレベルと関係がある。それは社会の発展に伴って変容している。もっと深く，広く，研究の必要がある。もっと多い，もっと新しい，もっと意義がある成果の獲得を期待している。